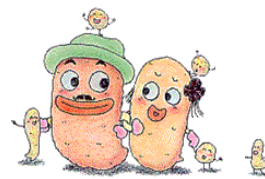


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

記事:

・花いっぱい運動
「駅前花壇に夏の
花の苗を植えました」

・連載小説
『男でござる 新
説天野屋利兵衛』
第10回

・令和5年度まちづ
くりの会総会を開
催しました

・ソレーネ周南9周
年祭
イカ焼きで出店し
ました

・今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山
まちづくりの会」
で一緒に活動しま
せんか。会では、
常時、会員を募集
しています。

E-mail:

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gmail.com

花いっぱい運動

「駅前花壇に夏の花の苗を植えました」



皆さん、戸田駅前花壇に何種類の花が植えられているかご存じですか？季節によって変わりますが、20種類はゆうにあります。

6月10日に花壇を夏の花に植え替えました。ジニア、ブルーサルビア、マリーゴールド、千日草、ひまわり、コキアと6種類の苗を植えました。花の咲く日を楽しみにお待ちください。

もちろん、今回すべての花を植え替えた訳ではないので、駅前には、まだまだ、多くの花々が咲いています。



タクシー乗り場の横では、今、立葵（タチアオイ）が花をたくさんつけています。花は下から上に向かって咲いていき、花が上まで咲くと梅雨が明けると言われています。

他に、矢車草、ガザニア、サフィニア、ハナビシソウ、ギボウシ、ビオラ、ダリアの花を見ることができます。



戸田駅前には、四季折々にさまざまな花が咲き誇り、写真を撮ったり、駅を利用する人を和ませています。

これからも色々な花が見られる戸田駅前花壇に是非見に来て、花の名前を教え合いながら、Googleの写真検索で花の名前を確認しながら、楽しい一時をお過ごし下さい。

(昭)

事件（回想）

四郎谷から出て何年経ったことでしょうか。私が十五の時に、まだ元号は貞享の御代でありました。あれからさらに十五年が過ぎ、私も三十の歳になりました。父親の神村将監と母の萬は、いまだ健在で四郎谷で畑を耕しながら里の子供たちに読み書きを教えているとのこと。また四郎谷の相談役のようなこともやっております。困った人にもみなで手を差し伸べたりして、里は大変住み易い所になっていくそうです。一度も帰ったことはありませんが、父母の消息を知る程度には手紙のやり取りをしております。いつの日か私も四郎谷へ帰って父母の顔を見たいと切望しております。

私は商人になりたくて、廻船問屋天野屋に奉公しました。船の乗組員から始まって、必死に仕事を覚え、脇船頭・船頭になりました。船頭になってからも天野屋の利益のために一生懸命励みました。その仕事ぶりが認められて、先代の当主三代目天野屋利兵衛の長女の咲の婿となり、四代目天野屋利兵衛となったのでございます。

その後順風満帆に思えた天野屋の経営も、相次ぐ船の遭難や海賊に襲われたりしましたことから、経営難に陥ってしまいました。そんな時にも赤穂藩のお殿様は天野屋に塩の輸送をご依頼くださいました。

このことは私共天野屋にとつて、とても大きな自信につながりました。店の事務を司る者、営業の者、舟の乗組員などすべての者がベクトルを同じ方向に向けて励んだおかげで、たちまち天野屋の経営は元通り、いやそれ以上の内容になったのでございます。

その間に元号も元禄へ変わりました。そして元禄の御代も十四年目を迎え、その三月十四日に事件は起きました。

江戸城松の廊下で、赤穂藩主浅野内匠頭様が吉良上野介様に小刀で切りかかったということがあります。まさか赤穂の殿様が刃傷沙汰に及ばれるとは考えられませんが、事実とすれば吉良様の行いに余程のことがあったと思えません。

事の真相は次のようなことであつたと聞いております。

毎年の事ではありませんが、三月のこの時期には天皇の使い、つまり勅使が京都から徳川將軍綱吉様に挨拶することになっていきます。將軍家ではその勅使をお迎えし、ご馳走を差し上げ、お土産を持たせて歓待することになって

いるとのこと。その勅使御馳走人の役に赤穂藩主浅野内匠頭様が当番にあつていたというのです。

勅使に饗応するには、すべて儀式の決まりに則つて行わなければならぬのであります。その決まりを司るのを高家と言つて吉良上野介様の役割でございます。つまり吉良様は浅野の殿様を指導する立場だったので。

これまでに勅使御馳走人の当番になったお殿様は、高家の吉良様のご機嫌を窺うために、それなりの金品を献上したというのです。もちろんそんなことは決まりでも何でもありません。儀式の次第を教えるのは吉良様の義務であります。しかし金品を献上しなければ、なにも教えてくれないというのです。このような金品は、明らかに賄賂であります。

若い赤穂の殿様はそんなことは考えに及びません。正直に吉良様にあれこれわからないことを問いただしたとのこと。吉良様の態度は相手を見下した態度で、そんなことも知らないのかと言いたげであつたとのこと。そして何も教えてはくれません。浅野様はこんなことでは御馳走人は務まらないと思ひ悩んでしまわれました。さらに教えを請おうとして吉良様にお願ひしても、忙しいといつて会つてもくれません。思い余つた浅野内匠頭様は、江戸城松の廊下で吉良上野介に切

りかかられたということでございます。一太刀で、周りにいた人たちに取り押さえられたのでした。吉良上野介は額に深い切り傷を負われましたが、致命傷には至らなかったのでございます。

元禄十一年には津和野藩主が接待役でありました。吉良上野介の態度に怒って、やはり刀を抜いたことがあるようです。この時は津和野の家老が高額の賂を送って事を治めたようです。これに類似した話はいくつもありました。

吉良上野介は吉良上野介義央（きらくうずけのすけよしなか）といいます。私の続きの話の中ではこの後義央と呼ばせていただきます。

義央は母が大老の姪であつたり、夫人があゝの米沢藩主上杉家から嫁いできていたり、また義央の息子を上杉家の養子にしたりして、権力を手に入れていたようでございます。そして、何事にも贅沢の極みを尽くされていたようです。だから中小の大名に驕慢な態度を取っていたと思われまゝ。ちなみに赤穂藩は五万参千石、徳山藩は四万石あまりなのでそんなに変わらない。義央にとって、赤穂藩なんか取るに足らない存在だったのでしよう。

一方の赤穂藩の殿様は、浅野内匠頭長矩といい、今後は長矩様と呼びます。浅野家は広島浅野の分家で、赤穂の塩によって家計は豊かでありました。私共はその塩の運搬に利用してもらっておりま

す。夫人の阿久里様は、一族の三次の浅野家から嫁がれて、お美しい人でありました。長矩様はこの阿久里様をこよなく愛されて、非常に仲の良い夫婦であつたと聞いております。

長矩様は家臣や赤穂藩の民に慕われ、学問好きで、一本気なところがあり、妥協できないひたむきな人でありました。そんな長矩様にとって、賄賂を贈らなかつたことで適切な指導をしないで長矩様に恥をかかせた義央を許せなかつたのであります。

松の廊下の事件の後、幕閣は処分を決めました。その結果、長矩様には切腹を命ぜられ、上野介義央には罪がないから、傷の養生をするようにということになりました。

そして、事件から日を置かずに、長矩様はきつぱりとお腹を召されたそうです。長矩様の態度はそれこそ武士の鑑というもので、とても立派であつたといわれております。その時の辞世が

風さそう花よりもなほ我はまた
春の名残をいかにとかせん

というものであります。今思つても涙なしには語れません。

長矩様に切腹を言い渡し、義央にはお咎めなしの裁定については、幕閣の中でも不公平だとの声があつたといひます。ましてや赤穂藩においては、到底受け入れられるものではありませんでした。あの手この手で抗議を試みよ

うとしたにもかかわらず、その声は届きません。

この裁定は、目付などの話し合いもありましたが、最終的には側用人の柳沢吉保様が將軍綱吉様とお決めになられたとのことです。日ごろから吉良上野介義央は柳沢吉保様に取り入って、義央が主催で茶の湯の会を催して、そこへ柳沢様を賓客としてお呼びになったり、付け届けも随分と高価なものを柳沢様にお届けになったりしていたようです。そのような関係も明らかになったりして、世間までこの事件に疑問を抱くようになりました。

根底には將軍綱吉様が幕閣という組織がありながら、側用人などという者を置いて、それを重用して、政治をほしいままにされたことへの不満があつたようでございます。

愚鈍なあるいは民を顧みない独裁者は、耳に痛い意見や忠告を嫌がるものです。周辺には耳触りの良いことばかり言うイエスマンを置きたがるものです。その結果が生類憐みの令だったり、今回の事件であつたりしたので、そのほかにも様々な問題を抱えており、幕閣の中にも疑問を呈するお殿様がいたようでございます。

（以下次号）

編集後記

コロナ禍で、活動を自粛していた。だが、それでも地球は回っていて、さあこれから元の活動を再開しようと思ったら、3年の月日が流れていた。ということはとりもなおさず3歳齢を重ねたということになる。

高齢者にとっての3年は重大である。残り少ない晩年を3年も無駄にしたと思う御仁もいるかもしれない。産まれたての赤ちゃんも3年経てば、日本語を喋ってその辺りを走り回っている。実に人間にとっての3年間は貴重なものである。と言って嘆いてもそこからは何も生まれない。

3年間しっかり充電した。

スマホでいうと100パーセント充電だ！！

さあ今から思う存分放電しようと考えてみてはいかがだろう。

発行責任者

会 長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

令和5年度まちづくりの会総会を開催しました

令和5年4月15日正午から戸田駅前広場でまちづくりの会総会を開催しました。朝からの雨も昼前には止み、予定通り戸田駅前広場で開催できました。参加者8人で、総会は手短かに済ませ、海鮮BBQで楽しく懇親を深めていましたが、13時頃から小雨模様となり、14時には雨足も激しくなったので、やむなく撤収となりました。



ソレーネ周南9周年祭 イカ焼きで出店しました



令和5年5月14日（日）9時から、4年ぶりにソレーネ周南で開催された「ソレーネ周南9周年祭」に、「イカ焼き」で出店しました。

前日の雨が嘘のように上がり、まずまずのイベント日和です。イカの姿焼きが手に入らなかったため、急遽切り身のイカ焼きに変更し、260杯の冷凍イカを準備しました。売れ残るのではと心配していましたが、なんとか完売できました。今後もイベントの際にはイベントを盛り上げるため

出店をしたいと思います。ぜひ、皆さんもイベントの際にご賞味ください。

今後の行事予定

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。お手伝いしていただける方、大歓迎です。